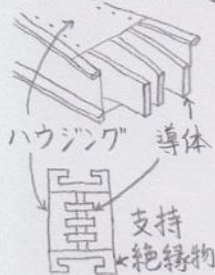


432. バスタクト工事・ケーブル工事

＜バスタクト工事＞



④特徴: 帯状の導体をハウジング(エンクロージャともいう)と呼ばれる金属製のダクトの中に収めた配線材料で、下記の特長を有し、工場などの大容量幹線などに広く使用されている。・電線容量を大きくする事ができる。・支持絶縁物の劣化が極めて少ないので、信頼度が高い。・配線が簡単なため、保守などが容易である。・加工が容易である。

⑥施設方法 ①電線: バスタクトである事 ②施設方法: ダクトを造営材に取り付ける場合は、ダクトの支持点間の距離を3m以下(取扱者以外の者が出入りできないように措置した場所において、垂直に取り付ける場合は6m以下)

とし、堅ろうに取り付ける事。ダクト(換気型の物を除く)の終端部は閉せし、内部にじんあいが侵入し難いようにする事。湿気の多い場所または水気のある場所に施設する場合は、屋外用バスタクトを使用し、バスタクト内部に水が侵入して濡らないようにする事 ③接地工事: 使用電圧が300V以下の場合は、ダクトにD種接地工事を施す事。使用電圧が300Vを超える場合は、ダクトにC種接地工事を施す事←ただし、接触保護措置を施す場合は、D種接地工事による事ができる

＜ケーブル工事＞

④特徴: 電線にケーブルまたはキャブタイヤケーブルを使用する工事で、電線を造営材に直接取り付け、工法が簡単で施設スペースも小さいなどの特長を有している

⑥施設方法 ①電線: ケーブル、キャブタイヤケーブル(2種・3種・4種)、クロロフレンキャブタイヤケーブル(2種・3種・4種)、耐燃性フル(2種・3種・4種)、クロロスルホン化ポリエチレンキャブタイヤケーブル(2種・3種・4種)、耐燃性ポリオレフィンエチレンゴムキャブタイヤケーブル(2種・3種)、ビニルキャブタイヤケーブルまたは耐燃性ポリオレフィンキャブタイヤケーブルである事 ②施設方法: 電線を造営材の下面または側面に沿って取り付ける場合は、電線の支持点間の距離をケーブルは2m以下(接触防護措置を施した場所に垂直に取り付ける場合は6m以下)、キャブタイヤケーブルは1m以下とし、かつその被覆を損傷しないように取り付けする事 ③接地工事: 使用電圧が300V以下の場合は、管その他の電線を収める防護装置の金属製部分、金属製の電線接続箱および電線の被覆に使用する金属体には、D種接地工事を施す事←ただし、防護措置の金属部分の長さが4m以下のものを乾燥した場所に施設する場合、または使用電圧が直流300Vまたは交流対地電圧150V以下の場合で、防護装置の金属製部分の長さが8m以下の物に簡易接触防護措置を施す時または乾燥した場所に施設する時は、D種の接地工事を省略できる。使用電圧が300Vを超える場合は、管その他の電線を収める防護装置の金属製部分、金属製の電線接続箱および電線の被覆に使用する金属体には、C種接地工事を施す事←ただし、接触防護措置を施す場合は、D種接地工事による事ができる



ケーブルの垂直は6m以下

ケーブル工事で特に重要な点を挙げれば、電線の支持点間距離のケーブル2m以下、キャブタイヤケーブル1m以下かな

全ての低圧屋内配線の工事に適用できるのは、合成樹脂管工事、金属管工事、金属可とう電線管工事、そしてこのケーブル工事ね

